

もっと輝く☆スター戦略☆ (案)

第3期武雄市まち・ひと・しごと 創生総合戦略

2025(令和 7)年度～2029(令和 11)年度

2025(令和 7)年●月

武 雄 市

目 次

I 第2期総合戦略の取り組み及び現状認識	3
II 第3期総合戦略の基本的な考え方	3
1. 位置づけ	3
2. 基本的視点	3
3. 政策の柱及び基幹事業	4
4. 基本目標及び指標	6
5. 検証・改善	8
III 基本目標と施策	
基本目標① 守る～安心して暮らせるまち～	9
具体的施策(1) 災害に強いまちづくり(重点プロジェクト)	
具体的施策(2) 暮らしやすい住環境の整備	
具体的施策(3) 心身の健康を育む支援	
具体的施策(4) 高齢者・障がい者の充実した暮らしの支援	
基本目標② 稼ぐ～働きがいのあるまち～	12
具体的施策(1) 稼ぐ地場産業の基盤づくり	
具体的施策(2) 強い農林業づくりの支援	
具体的施策(3) 新たな活躍の場づくり(重点プロジェクト)	
基本目標③ 育む～成長を支えるまち～	14
具体的施策(1) 安心できる子育て環境の整備	
具体的施策(2) 誰一人取り残さない教育の推進	
具体的施策(3) 夢を持って成長できる学びの場づくり	
具体的施策(4) 文化・スポーツを身近に感じる環境づくり(重点プロジェクト)	
基本目標④ 彩る～交流しにぎわうまち～	17
具体的施策(1) 西九州のハブ都市の推進(重点プロジェクト)	
具体的施策(2) 効果的な情報の発信	
具体的施策(3) 多様なつながりで築く豊かな地域づくり	

基本目標⑤ つなぐ～未来へ続くまち～……………19

具体的施策(1) 地域の特色を活かしたまちづくり(重点プロジェクト)

具体的施策(2) 持続可能な公共交通の整備

具体的施策(3) 豊かな自然環境の維持と活用

具体的施策(4) 効率的な行政の運営

I 第2期総合戦略の取り組み及び現状認識

第2期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「第2期総合戦略」という。)は、まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条に基づき、国や県の総合戦略を勘案した上で、「武雄市人口ビジョン」を踏まえ、武雄で市民一人一人が幸せに暮らすことを重視し「もっと輝く☆スター戦略☆」と称して策定した。

第2期総合戦略は、「仕事を創出し、所得を上げる」「最高の子育て・教育環境をつくる」「生きがいと健康を実感できるまちをつくる」「人と人との交流が生まれ、心がつながるまちをつくる」「災害に強く、安心して心豊かに暮らす環境をつくる」の5つを基本目標に掲げ、その指標を2024(令和6)年度人口48,000人の維持、市民所得10%アップとして取り組みを進めてきた。

武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会において毎年検証を行い、第2期の5年間で、それぞれの基本目標に係る取り組みを進めてきた結果、人口は、2023(令和5)年に5年ぶりに社会増を達成し、2024(令和6)年10月末現在46,997人と目標の48,000人を下回ってはいるものの、国立社会保障・人口問題研究所による2024(令和6)年推計45,320人と比較すると1,600人程度上回っており、政策の成果が得られた。市民所得においても、基準値である243万2千円から267万6千円と約10%アップし、目標を達成している。

武雄市人口ビジョンの示す本市の現状は、若年人口と生産年齢人口が1985(昭和60)年の46,727人から2020(令和2)年の32,764人と減少が進んでいる一方、老年人口は、1985(昭和60)年の7,592人から2020(令和2)年の15,150人と増え続けており、現状では少子高齢化と人口減少がゆるやかに進行している。今後、老年人口が減少に転じる2025(令和7)年以降は、本格的な人口減少時代を迎える見込みである。高校卒業後の転出超過に対する、大学卒業後の就職等による転入超過は5分の1程度に留まり、生産年齢層の人口流出が深刻化している。また、在留外国人口は新型コロナウイルスの影響で一時減少したものの、2015(平成27)年の151人から、2024(令和6)年の331人と、増加が進んでいる。

II 第3期総合戦略の基本的な考え方

1 位置付け

まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条に基づき、「武雄市人口ビジョン」を踏まえ、本市の「まち・ひと・しごとの創生」に向けた目標、施策の基本的方向、具体的な施策を取りまとめた基本的な計画として策定するものである。

2 基本的視点

少子高齢化及び人口減少が、経済へ与える影響は大きく、地域社会の様々な基盤の維持を困難にしていくなか、そのため、少子高齢化及び人口減少に歯止めをかける取り組みの強化が必要であるとともに、今後ある程度の少子高齢化及び人口減少は避けられないことを前提に、効率的かつ効果的で持続可能な地域社会の構築のため、人口、経済、地域社会の課題解決及び地域活性化に対して一体的に取り組むことが重要である。

第3期総合戦略の策定にあたっては、住民や様々な分野(産・官・学・金・労・言・士等)の代表で構成される武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会をはじめ、市内各地で開催した市民ワークショップ(延べ127名が参加)、武雄市に関連のある関係団体へのヒアリング(70団体より回答)などを通じて、市民のニーズや現状を把握しながら進めてきた。

市民からは、「高齢者の生きがいづくりへの支援」、「魅力的な雇用の創出」、「多様な人々のつながり」、「若者が帰ってきたくなる地域づくり」、「区役の継続が困難である地域に対する支援」などが必要といった幅広い意見が寄せられた。

こうした市民意見や社会潮流を踏まえ、本戦略では以後に示す「新たに重視する視点」を加えると

ともに、国が掲げるデジタル田園都市国家構想と連動したデジタル活用を横断的に推進することで、地域の課題解決や魅力向上に向けた取り組みをさらに深化・加速させる。

<新たに重視する視点>

(1)市民総活躍



労働力不足や地域の担い手不足に対応するためには、年齢や障がいの有無などに関わらずすべての市民がその能力を活かし、活躍できる環境づくりが求められている。市民にとっての生きがいを創出し、同時に地域の労働力を確保するため、雇用のマッチングやスキルアップ支援に取り組み、人々が支え合い、発展する地域社会の実現を目指す。

(2)女性・若者目線



少子高齢化及び人口減少が進む中、地域を活性化するためには、女性や若者から選ばれる魅力的なまちづくりが求められている。性別にかかわらず誰もが活躍できるまちを実現するため、仕事と子育ての両立支援の強化や、固定的な性別役割分担意識の解消を図る。さらに、未来を担う若者が、その才能や行動力を最大限に発揮できるよう、教育やキャリア支援を充実させる。

(3)多文化共生



外国人在留者や観光客は増加傾向にあるため、異なる文化や価値観を互いに理解し、尊重し合うことが求められている。武雄市の伝統や文化、今ある地域資源などを大切に守りながら、外国人等との相互理解を深めるための交流の機会創出や、外国人が暮らしやすく、過ごしやすい環境整備を進める。

(4)地域特性を活かしたまちづくり



少子高齢化が顕著な周辺部などにおいても、地域住民が安心して暮らしていけるよう、地域の特性やニーズに応じたまちづくりを進めていくことが求められている。地域の魅力を最大限に活かし、持続可能なまちづくりを進める。

(5)下位計画との連携強化

市の政策がより一貫性を持って進められるよう、最上位計画である本総合戦略と下位計画との連携を強化する。各部署や地域の取り組みが総合戦略に基づき、効果的に実施されるよう調整を図り、全体的な政策の統一性と継続的な発展を目指す。

3 政策の柱及び基幹事業

第2期総合戦略は、5つの基本目標を掲げ、市民一人一人が幸せに暮らすまちづくりを推進してきた。地方創生は息の長い取り組みであるため、第2期で根付いた地方創生の意識や取り組みは2025(令和7)年度以降も継続していく。

2022(令和4)年の西九州新幹線開業により、武雄市は交通の要衝としての存在感が一層高まっている。この交通のハブ機能を活かし、さらなるまちの発展を目指すためには、武雄温泉に代表される観光資源や、御船山・黒髪山・大楠などの豊かな自然資源、農産物をはじめとした特産品、さらに蘭学や焼き物といった歴史文化・産業資源など、武雄にあるものの価値を再認識し、最大限に活用することが不可欠である。

武雄市の地域資源や人材と、ハブ機能によって集まる多様なモノとの融合が、起業や企業連携、教育や研究分野での新しい取り組み、さらには文化を活かした観光資源の創出など、さまざまな分野で新たな挑戦を生み出し、まちの原動力になるという考えのもと、あるものを活かして新たな挑戦を生み出す「西九州のハブ都市」の推進を政策の柱とする。

基幹事業としては、大雨災害から市民生活を守るため、関係機関と連携した流域での治水対策を行う、「水と共に生きるまちをつくる治水対策事業」を進める。大雨による床上浸水ゼロを目指し、河川の整備や排水機能の強化などを推進する。

また、文化を活かしたまちづくりとにぎわいの創出を目指すため、「みんなで育てる文化のまちづくり事業」を進める。文化と食、文化とスポーツなど、文化を軸においた様々な分野との連携によるまちの魅力づくりや、市民誰もが文化芸術に触れ、文化活動を身近なものと捉えることができるような環境づくりを進めていく。

【政策の柱】

あるものを活かして新たな挑戦を生み出す

「西九州のハブ都市」の推進

【基幹事業】

○水と共に生きるまちをつくる治水対策事業

○みんなで育てる文化のまちづくり事業

4 基本目標及び指標

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、2015(平成27)年の第1期より「市民一人一人が幸せに暮らすこと」を最も重視し、この理念のもと「もっと輝く☆スター戦略☆」と称して策定し、市の事業を推進してきた。

「スター戦略」の名称は、幸せを象徴するとされる五角形(スター)に由来する。この五角形は市民一人一人の幸せを構成する要素を表しており、その要素に基づいて5つの基本目標を設定し、各種事業に取り組んできた。

第3期スター戦略では、市民一人一人の幸せを実現するための基本目標として①守る(安全・安心)、②稼ぐ(経済・なりわい)、③育む(子育て・教育)、④彩る(交流・つながり)、⑤つなぐ(持続可能なまち)の5つを掲げる。

これらの目標については、「①守る」により、災害への備えや福祉サービスを充実させることで誰もが安全・安心に暮らせる基盤を築き、「②稼ぐ」により、産業の振興や多様な働き方の支援を通じて、市民の経済的安定を図る。その上で、「③育む」により、子育て・教育環境の充実や文化・スポーツの振興を通じて、子どもから大人まで、あらゆる市民の成長と自己実現を支える。こうして築き上げた生活の土台をさらに豊かにするため、「④彩る」により、①～③で形成されたまちに、人々のつながり、にぎわいを創出。そして、「⑤つなぐ」によって、これらの取り組みで育まれた魅力と誇りあるまちを未来へ受け継ぐものと位置付ける。

この基本目標は、人々の生活を軸に据えた段階的なまちづくりのアプローチを示しており、各基本目標が相互に作用しながら、持続可能で魅力的なまちの実現を目指していく。

このまちづくりの実現の指標を、2029(令和11)年度において人口46,000人維持、市民総所得10%アップとする。

基本目標① 守る～安心して暮らせるまち～

災害への備えや住環境の整備、福祉サービスの充実等を通じて、市民が安全安心に暮らせる生活基盤を構築する。

【関連するSDGsの目標】



基本目標② 稼ぐ～働きがいのあるまち～

地場産業の振興、人材育成の強化、多様な働き方の支援等を通じて、市民の経済的な安定と発展を促進する。

【関連するSDGsの目標】



基本目標③ 育む～成長を支えるまち～

子育て支援の充実や教育環境の整備、文化・スポーツの振興等を通じて、こどもから大人まで、成長と自己実現を支える。

【関連するSDGsの目標】



基本目標④ 彩る～交流しにぎわうまち～

観光資源の活用や魅力的な情報発信、多文化共生の推進等を通じて、まちに交流とにぎわいを創出する。

【関連する SDGs の目標】



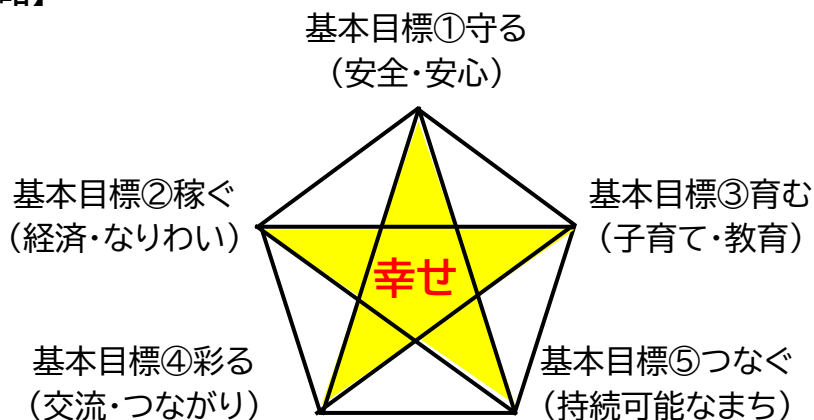
基本目標⑤ つなぐ～未来へ続くまち～

地域資源を最大限に活かしたまちづくりや公共交通の維持、自然環境の保全等を通じて、魅力ある誇れるまちを次世代へ受け継ぐ。

【関連する SDGs の目標】



【スター戦略】



2029(令和11)年度 人口 46,000人
(国立社会保障・人口問題研究所 推計 2029(令和11)年 44,794人)
2029(令和11)年度 市民総所得 10%アップ
(令和5年度 市町村税課税状況等の調¹ 596 億 3198 万 9 千円)

¹ 市町村別内訳 第 11 表 総所得金額等。

5 総合戦略の検証・改善

施策ごとに設定した「重要業績評価指標(KPI²)」を基に、PDCA サイクル³により施策の効果を検証し、必要な見直しを行っていくものとする。



² Key Performance Indicator の略。政策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

³ Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。

Ⅲ 基本目標及び施策

基本目標の実現に向け、施策の基本的方向及び、実施する具体的な施策を次のとおり定める。特に重点的に進める具体的施策には「重点プロジェクト」と記載した。また、基本目標における指標や、各施策における重要業績評価指標(KPI)を次のとおり設定する。なお、本戦略における「新たに重視する視点」を反映した具体的施策には「新たに重視する視点」のうち該当する視点のアイコンを表示した。

基本目標①

守る～安心して暮らせるまち～

◆基本的方向

- あらゆる災害から市民の命を守るため、誰もが安心して避難できる環境整備など、災害への備えを充実させる。また、激甚化する水害に対応するため、関係機関と連携した流域全体での治水対策に取り組むことで、未来に向けた安心感を高めるとともに、まちの魅力向上やさらなる発展につなげる。
- 地域資源を活かした景観づくりや、公園・道路等の整備など、計画的な都市整備を進めるとともに、交通安全・防犯対策の強化や消費生活相談体制の充実を図り、誰もが安心して快適に暮らせる住環境を整える。
- 医療・介護・福祉分野の連携による、市民に寄り添った心身の健康づくり支援や、高齢者や障がい者の社会参加への支援を充実することで、どんな環境や境遇であっても、一人一人が自分らしく幸せに暮らせる福祉のまちづくりを着実に進める。

指標	基準	目標
武雄市は住みやすいと回答した人の割合(市民アンケート)	71.8%(R5年度)	80.0%(R11 年度)

◆デジタル活用の方向性

デジタル技術による防災情報を充実させ、平時から利用することで防災力の向上につなげる。災害時における行政からの支援の迅速化を実現する。また、デジタル技術を積極的に活用して、福祉サービスの効率化を図り、市民生活の質向上を目指す。

<活用例>

- ・罹災証明交付等の被災者支援の迅速化
- ・集団検診のオンライン予約導入
- ・高齢者のデジタル交流環境の整備と利用促進
- ・公開型 GIS の活用による防災意識の向上

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市総合治水計画
- 武雄市ユニバーサルデザイン推進計画
- 武雄市空家等対策計画
- 武雄市下水道事業経営戦略
- 武雄市橋梁長寿命化修繕計画
- 武雄市景観計画
- 武雄市立地適正化計画
- 武雄市地域福祉計画
- 武雄市高齢者福祉計画
- 武雄市食育推進計画
- 武雄市国民健康保険保健事業実施計画
- 武雄市地域防災計画
- 武雄市気候変動対応モデル都市構想
- 武雄市耐震改修促進計画
- 武雄市市営住宅ストック総合活用計画
- 武雄市生活排水処理基本計画
- 武雄市都市計画マスタープラン
- 武雄市国土利用計画
- 武雄市公共施設等総合管理計画
- 武雄市障がい者計画
- 武雄市健康増進計画
- 武雄市自殺対策基本計画

具体的施策(1) 災害に強いまちづくり(重点プロジェクト)

市民の命を守ることを最優先として、高齢者や障がい者など配慮が必要な方々が安心して避難できる環境整備や、やさしい日本語版ハザードマップの運用等、あらゆる市民に対応した防災対策を強化するとともに、市民一人一人が自らの命を守る「自助」の意識を高めるための支援を行う。また、地域全体で助け合う「共助」の取り組みを促進し、地域全体の防災力向上を図る。

大雨による床上浸水ゼロを目指し、河川の整備や排水機能の強化など、関係機関と連携した流域全体での治水対策を着実に進めるとともに、山間部の土砂災害対策を進めるなど、水と共に生きるまちづくりを推進する。

さらに、災害時に活動する消防団員が迅速かつ的確に活動できる体制を整える。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
公有地を活用した 雨水貯留対策量	—	8,000 m ³ (R7～11 年度累計)
地域防災リーダー数	66人(R6年度)	91人(R11年度)

具体的事業

- ・遊水公園整備事業
 - ・防災情報発信事業
 - ・避難行動要支援者事業
 - ・耐震診断、改修事業
 - ・急傾斜地等崩壊防止事業
 - ・農村地域防災減災事業
 - ・消防団運営事業
 - ・校庭、公園貯留整備事業
 - ・地域防災力向上事業
 - ・水に強い住まいづくり支援事業
 - ・災害復旧事業
 - ・防災備蓄事業
 - ・避難所等運営整備事業
- 等

具体的施策(2) 暮らしやすい住環境の整備

こどもから高齢者まで、さまざまな世代が快適で住みやすい住環境を確保するため、地域資源と調和した景観づくりや、公園・道路・下水道等の計画的な都市整備を進める。また、公共施設へのユニバーサルデザインの導入を進めることで、すべての人が利用しやすい空間づくりを目指す。

今後も空き家の増加が懸念されるため、空き家の活用や解体に対する支援を強化することで、安全で魅力的な環境を整備するとともに、地域のにぎわいづくりを進める。

警察などの関係機関と連携し、交通安全・防犯意識向上のための啓発活動や、多様化・巧妙化する犯罪等のトラブルから市民を守るための消費生活相談体制の充実を図る。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
汚水処理人口普及率	74.3%(R5 年度)	83.7%(R11 年度)
空き家・空き地バンク 成約数	13 件(R5 年度)	89 件(R7～11 年度累計)

具体的事業

- ・景観形成支援事業
 - ・公園活用促進事業
 - ・汚水施設整備事業
 - ・道路整備事業
 - ・消費者行政活性化事業
 - ・空き家、空き地バンク事業
 - ・市営住宅管理事業
 - ・公園、キャンプ場維持管理事業
 - ・下水道整備事業
 - ・交通安全啓発事業
 - ・空き家、空き地対策事業
- 等

具体的施策(3) 心身の健康を育む支援

市民が心や身体の健康づくりに関心を持ち、自ら積極的に取り組めるよう、誰もが気軽に相談できる体制をつくるとともに、健康づくりに役立つ情報提供や、各種健康増進事業の実施を通して市民の健康づくりを推進する。

生活に不安を抱える方に対して、迅速かつ的確な対応を行うため、各種支援機関との連携を強化する。様々な相談内容に対し、包括的かつ継続的な支援を提供し、市民一人一人が安心して暮らせる環境づくりを目指す。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
国保の特定健診受診率	48.3%(R5 年度)	60.0%(R11 年度)
国保の特定保健指導実施率	62.3%(R5年度)	75.0%(R11 年度)
健診受診者のHbA1c ⁴ 6.5%以上の者の割合	14.2%(R5年度)	10.0%(R11 年度)

具体的事業

- ・国保の特定健診保健指導事業
 - ・精神保健事業
 - ・さわやかスポーツクラブ事業
 - ・生活困窮者自立支援事業
 - ・物価高騰対策事業
 - ・がん検診事業
 - ・食生活改善推進協議会活動事業
 - ・重層的支援体制整備事業
 - ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業
- 等



具体的施策(4) 高齢者・障がい者の充実した暮らしの支援

高齢者が生きがいを持って生活できるよう、高齢者の技能・経験を活かせる活躍の場や若者との世代間交流の場の確保などを促進する。また、いつまでも住み慣れた地域で社会とつながり安心して暮らすことができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供が確保される地域包括ケアシステムの構築を支援する。

障がいの有無にかかわらず、すべての市民が人格と個性を尊重し合う共生社会の充実を図る。文化芸術活動やスポーツなどによる交流を通じ、障がい者が生きがいを実感できる環境を創出する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
要支援・要介護認定率	18.5%(R5 年度)	17.5%(R11 年度)
認知症サポーター養成講座受講者数	8,532 人(R5 年度)	10,248 人(R11 年度)
障がい者就職説明・面接会を通じた就職件数	3 人(R5 年度)	15 人(R7～11 年度累計)
福祉施設の入所者の地域生活への移行数	0 人(R5 年度)	6 人(R6～10年度累計)

具体的事業

- ・高齢者サロン等お出かけ支援事業
 - ・公民館講座事業
 - ・シルバー人材センター支援事業
 - ・地域包括ケアシステム拠点運営継続支援事業
 - ・老人福祉センター運営事業
 - ・介護予防教室事業
 - ・障がい者雇用促進事業
 - ・コミュニケーション支援事業
 - ・チャレンジスポーツ大会運営支援事業
 - ・高齢者大学助成事業
 - ・老人クラブ活動等事業
 - ・認知症対策事業
 - ・高齢者等見守り各種事業
 - ・小地域ネットワーク活動推進事業
 - ・重層的支援体制整備事業
 - ・障がい福祉サービス事業
 - ・重度心身障がい者医療費助成事業
- 等

⁴ HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）・・・糖化ヘモグロビンの存在割合。糖尿病の診断に用いる指標。

基本目標②

稼ぐ ～働きがいのあるまち～

◆基本的方向

- 商工団体等と連携し、事業者の経営課題解決に向けた支援を行うとともに、多様な働き方の創出や、教育機関との連携による人材育成を通じて、地域で活躍する人材の確保を推進し、地域の人手不足解消を図る。
- 強い農林業を目指し、農林畜産物の魅力向上や新規就農への支援を強化するとともに、地産地消を推進する。
- 企業誘致**の推進、デジタル技術の活用による新たなビジネスモデルの創出や地域資源を活かした経済循環の促進を通じ、**女性や若者**から選ばれる魅力的な就業機会の創出を図る。

指標	基準	目標
就職件数 ⁵	1,746 人(R5 年度)	2,000 人(R11 年度)

◆デジタル活用の方向性

観光や農業など、地場産業のデジタル活用による地域の魅力向上とともに、新たな事業の創出や起業を促進し、地域経済の活性化を図る。

<活用例>

- ・ドローンや IoT 等のデジタル技術の導入支援 ・品質管理や販路拡大の支援
- ・データ分析による生産性向上やリスク管理支援
- ・地域通貨を活用した地域内経済循環の促進

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市男女共同参画推進計画
- 武雄市障がい者計画
- 認定創業支援等事業計画
- 農業振興地域整備計画
- 武雄市鳥獣被害防止計画
- さが園芸農業振興産地計画
- 武雄市地域計画
- 武雄市ユニバーサルデザイン推進計画

具体的施策(1) 稼ぐ地場産業の基盤づくり

人手不足、国際化やデジタル技術の急速な進展等、社会情勢の変化に対応し、事業者が直面する課題に対する支援を強化する。

また、商工団体等と連携し、地域資源を掛け合わせた新たな価値創造の取り組み、将来性のある起業・創業への支援、新たな事業展開を目指す事業者への支援に積極的に取り組み、地域に根ざした産業の振興に努める。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
地域商業活性化事業を活用した新規出店数	2 件(R6 年度)	10 件(R7～11 年度累計)

具体的事業

- ・特産品開発、販路開拓支援事業
- ・創業支援事業
- ・地域商業活性化支援事業
- ・商工団体支援事業
- ・道の駅民間活力活用事業
- ・中小企業融資事業
- 等

⁵ ハローワーク武雄管内（武雄市、大町町、江北町、白石町）の就職件数。

具体的施策(2) 強い農林業づくりの支援

農林業が今後も基幹産業として継続できるよう、新規就業者の確保や定着を支援する。

地域に根差した農畜産物の魅力を磨き上げ、ブランド化を推進するとともに、地産地消を推進し、安定的な収益確保を目指す。

農地の維持・集約、有害鳥獣被害防止対策の強化や森林保全への支援を行うとともに、農業用施設の維持管理等の支援を行うなど、農業基盤を支えることで、生産活動の安定化と効率化を図る。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
農業産出額	57.8 億円(R4 年)	66.0 億円(R10 年)
青年等就農計画数	3 人(R5年度)	15人(R7～11年度累計)
有害鳥獣の農作物被害額	450 万円(R5年度)	400 万円(R10 年度)

具体的事業

- ・新規就農者支援事業
- ・園芸団地整備事業
- ・有害鳥獣対策事業
- ・多面的機能支払交付金事業
- ・農産物ブランド化事業
- ・中山間地域等直接支払交付金事業
- ・畜産振興事業
- ・病虫害防除対策事業
- ・地産地消推進事業
- ・林業振興支援事業
- 等

具体的施策(3) 新たな活躍の場づくり(重点プロジェクト)



育児や介護中の方などが就業しやすい柔軟な働き方の創出や、高齢者の労働参加を支援することで、労働者の所得向上と雇用者の労働力確保を実現する。

工業団地を整備し、今後成長が見込まれる分野や市内産業の成長への寄与が期待できる分野をターゲットとした企業誘致を進めるとともに、地場産業の魅力向上を支援することで、若者が地元で安心して働ける環境を実現する。

企業、大学、地域との連携によるキャリア形成やスキルアップの支援を行い、地域で活躍する人材の育成に努め、地域全体の労働力を底上げする。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
企業誘致数	1 件(R5 年度)	5 件(R7～11 年度累計)
進出協定企業の正社員雇用者数	8 人(R5 年度)	40 人(R7～11年度累計)
個人市民税の納税義務者数 ⁶	24,157 人(R5 年度)	24,157 人(R11 年度)

具体的事業

- ・男女共同参画啓発事業
- ・専門技能者育成事業
- ・子育て世代の就活支援事業
- ・学校誘致事業
- ・就職相談会開催事業
- ・障がい者雇用促進
- ・企業誘致事業
- ・新工業団地整備事業
- 等

⁶ 市町村税課税状況等の調 市町村別内訳 第2表 均等割を納める者。

基本目標③ 育む ～成長を支えるまち～

◆基本的方向

- 家庭環境や子育てに関する悩みや困り事等に対し、関係団体が連携し、地域全体で子育てを自分事として何ができるのかを考え、安心して子育てができるよう支援する。
- 全国に先駆けて進めてきた ICT 教育をさらに深化するなど、全てのこどもたちが生まれ育った環境等に左右されることなく、平等に教育を受ける機会を保障する。
- 生涯学習の充実や学校誘致など、若者から高齢者まで学びたい人がいつでも、誰でも学ぶことができる機会を創出し、地域で活躍する人材を育成する。
- 文化やスポーツを身近に感じる環境づくりを進め、誰もが心豊かに暮らせるまちをつくる。

指標	基準	目標
年少人口率	13.05%(R5 年度)	13.30%(R11年度)

◆デジタル活用の方向性

デジタル技術を活用した学習機会を提供し、教育水準の向上を図る。

<活用例>

- ・AI 技術の利用促進
- ・デジタル技術を活用した新たな教育環境の構築
- ・ネットワーク環境の維持、向上
- ・学校でのデジタルリテラシー教育の推進
- ・デジタルアーカイブ導入

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市教育大綱
- 武雄市の教育
- 武雄市子ども・子育て支援事業計画
- 武雄市子どもの未来応援計画
- 武雄市男女共同参画推進計画
- 武雄市創造的復興プラン
- 武雄市ユニバーサルデザイン推進計画
- 武雄市教育ビジョン

具体的施策(1) 安心できる子育て環境の整備

保育サービスの充実や、子育て総合支援センターを拠点とした子育て世代の交流の場の提供等により、地域全体でこどもを育てる環境づくりを推進する。

こども家庭支援員や保健師等が、子育てに関する情報提供や助言を行い、必要な支援サービスへつながることで、各家庭の悩みや不安の解消に努める。

家庭での学習や遊びが困難なこどもたちに対し、こどもの笑顔コーディネーターを中心として関係機関と連携を図りながら、居場所や体験活動を提供し、生活・学習習慣の定着を図る。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
出産後安心して育児ができている人の割合	87.6%(R5 年度)	90%(R11 年度)
子育て総合支援センター利用者数	8,742 人(R5 年度)	9,500 人(R11 年度)
放課後児童クラブを利用した保護者の満足度	97%(R5 年度)	98%(R11年度)

具体的事業

- ・妊婦等包括的相談支援事業
- ・ファミリーサポートセンター事業
- ・保育所、認定こども園整備事業
- ・子ども家庭総合支援拠点事業
- ・ヤングケアラー支援体制強化事業
- ・こどもの居場所づくり支援事業
- ・男性の子育て推進事業
- ・就学援助事業
- ・子育て世代包括支援センター事業
- ・保育人材確保事業
- ・病児病後児保育事業
- ・子どもの発達支援事業
- ・こどもの貧困対策事業
- ・放課後児童健全育成事業
- ・多子世帯支援事業

等

具体的施策(2) 誰一人取り残さない教育の推進

学習用端末などのデジタルを有効活用し、各児童生徒の学習状況に応じた学びを支援することで、学習意欲と学力の向上を図る。

特別支援学級や不登校の児童生徒など、一人一人に応じた多様な学びを支援することで、こどもたちの笑顔を育み、誰もが個別最適に学べる環境をつくる。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
不登校児童生徒数のうち 学校内外の機関等において 相談・指導を受けた割合	小学校:97%(R5年度) 中学校:96%(R5年度)	小学校:97%(R11年度) 中学校:96%(R11年度)
学習意欲が高いこどもの割合	小学校:84.8%(R6年度) 中学校:80.8%(R6年度)	小学校:90%(R11年度) 中学校:85%(R11年度)

具体的事業

- ・教育 DX 推進事業
- ・ALT 活用事業
- ・特別支援教育推進事業
- ・地域学校協働活動事業
- ・小中学校の体験活動の充実事業
- ・適正就学支援事業
- ・不登校児童生徒支援事業

等

具体的施策(3)夢を持って成長できる学びの場づくり



高校生や大学生のまちづくり参画事業など、若者が地域に関わり、多様な考え方に触れる機会を創出することで、地域の魅力や課題の認識を深めるとともに、主体的に考える力を育む。

姉妹都市との国際交流事業などを通じて、異文化理解を深める機会を提供することで、国際的な視野を持ち、地域で活躍できるグローバル人材を育成する。

出前講座等の生涯学習プログラムの充実を図るとともに、学校誘致により進学を選択肢を増やすなど、年齢や境遇に関わらず、学びたい気持ちが尊重されるまちづくりを進める。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
高校生のまちづくり参画事業で高校生が関わった市民等の人数(各班の平均人数)	110人(R6年度)	600人(R7~11年度累計)
出前講座受講者数	6,366人(R5年度)	7,010人(R11年度)

具体的事業

- ・学校誘致事業
- ・大学、短期大学等との連携事業
- ・高齢者大学活動支援事業
- ・生涯学習まちづくり出前講座事業
- ・高校生のまちづくり参画事業
- ・国際交流事業
- ・学習機会提供事業
- ・官民一体型学校事業

等

具体的施策(4) 文化・スポーツを身近に感じる環境づくり (重点プロジェクト)

文化のまちづくり構想の理念に基づき、市内小学校等を対象とした図書館・歴史資料館での企画展への見学ツアーや、まちじゅうアートプロジェクトを実施するなど、市民が気軽に文化芸術に触れ、楽しむ機会を創出する。

ニュースポーツイベントの実施や、誰もが利用しやすいスポーツ施設の整備等を通じて、年齢や障がいの有無を問わず生涯を通し気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを行う。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
歴史資料館企画展への来場者数	28,159 人 (H31～R5 年度平均)	29,000 人 (R7～11 年度平均)
自主文化事業・文化のまちづくり構想具現化事業関連イベントの集客数・参加者数	3,271 人 (H30～R5 年度平均)	3,300 人 (R7～11 年度平均)
スポーツイベント等への参加人数	7,130 人(R5 年度)	8,100 人(R11 年度)
スポーツに関する指導者育成等のセミナー参加人数	—	250 人(R11 年度)

具体的事業

- ・文化のまちづくり構想具現化事業
- ・新文化交流施設エリア整備事業
- ・文化財保存活用事業
- ・歴史資料館企画展事業
- ・伝統芸能承継事業
- ・自主文化事業
- ・市史編さん事業
- ・体育施設運営維持管理事業
- ・市民のスポーツ参画事業
- ・スポーツコミッション事業
- 等

◆基本的方向

- 西九州新幹線開業により、武雄市は西九州のハブ都市として存在感が一層高まっている。この好機を活かし、西九州エリアの自治体と連携を深めるとともに、武雄ブランドの発信を強化し、交流人口の拡大や移住・定住の促進を図る。
- 男女共同参画の推進や、国際化に対応したユニバーサルデザインの普及を図ることで、多様な価値観や文化を持つ人々が安心して生活し、活動できる環境をつくるとともに、多様な人の交流が新たな価値を創造し発展するまちを目指す。

指標	基準	目標
観光客数	153 万人(R5 年)	200 万人(R10 年)

◆デジタル活用の方向性

地域社会全体のデジタル参画を推進し、利便性の向上と新たなビジネス機会の創出を支援する。

<活用例>

- ・デジタルアーカイブ導入
- ・自動運転を含む新しい交通システムの検証
- ・スーパーアプリの活用による効率的な情報発信
- ・公開型 GIS の導入による行政情報利活用の促進

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市ユニバーサルデザイン推進計画
- 武雄市男女共同参画推進計画
- 武雄市文化のまちづくり構想

具体的施策(1) 西九州のハブ都市の推進(重点プロジェクト)

武雄を拠点に、観光、文化、スポーツなど様々な分野で周辺自治体との連携を強化し、相互の魅力を高め合うことで、さらなる交流人口の増加を目指す。

二次交通⁷の整備や宿泊施設の拡充を支援し、国内外からの観光客やビジネス客が快適に滞在できる受け入れ環境を整備する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
武雄温泉駅の乗降客数	1,953 人/日(R5年度)	2,500 人/日(R11 年度)
外国人観光客数	14,000 人(R5 年)	18,300 人(R10 年)

具体的事業

- ・文化のまちづくり事業
 - ・宿泊施設整備奨励事業
 - ・広域観光連携事業
 - ・外国人観光受入環境整備事業
 - ・自発の観光誘客チャレンジ支援事業
 - ・スポーツ大会、合宿等誘致事業
 - ・観光周遊バス事業
 - ・インバウンド誘客セールスプロモーション事業
 - ・観光施設運営管理事業
- 等

⁷ 交通拠点（ハブ）となる駅等から目的地までの移動手段のことを指す。路線バス、タクシーやレンタカーなどが該当する。



具体的施策(2) 効果的な情報発信

地域の魅力や取り組みを様々なメディアを活用して発信するだけでなく、誰もが情報を受け取れるよう、手話通訳の活用など、アクセシビリティ⁸に配慮した情報発信を行う。

武雄市の住みやすさや充実したこども・子育て支援といった強みを、地方移住に関心のある若者や子育て世代を中心としたターゲット層に、SNS 等を活用して戦略的にプロモーションするなど、まちの魅力を効果的に発信することにより交流人口の増加や移住定住の促進を図る。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
移住相談件数	1,284 件(R5 年度)	1,300 件(R11 年度)
公式ウェブサイト表示回数	1,691,510 回(R5 年度)	2,000,000 回(R11 年度)

具体的事業

- ・市政情報発信事業
- ・点字・声の広報等発行事業
- ・移住定住広告宣伝事業
- ・空き家、空き地バンク事業
- ・地域おこし協力隊事業
- 等



具体的施策(3) 多様なつながりで築く豊かな地域づくり

将来にわたって活力ある地域社会を実現するためには、地域に集う多様な人々の活躍が不可欠であるため、多様な価値観を尊重する魅力的な地域づくりが求められる。

男女共同参画の推進、ユニバーサルデザインの普及、多言語化や人権・同和問題への取り組み等を通じて、年齢、性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、誰もが自分の居場所と役割を持ち、つながり支え合う豊かな地域の実現を目指す。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
市の審議会・委員会等委員への女性の参画率	34.9%(R5 年度)	40.0%(R11年度)

具体的事業

- ・多文化共生のまちづくり事業
- ・男女共同参画推進事業
- ・人権啓発活動推進事業
- ・国際交流事業
- ・定住特区補助金事業
- ・東京圏移住支援事業
- ・婚活支援事業
- 等

⁸ 障がいのある方や高齢者など、あらゆるユーザーが情報にアクセスし、サービスを利用することができること。

基本目標⑤ つなぐ ～未来へ続くまち～

◆基本的方向

- 周辺部**で顕著に進行している少子高齢化の状況においても、地域の絆やつながりを持ち、支え合いながら、誰もがいつまでも安心して暮らせるよう、移住・定住の促進、地域の実情に応じた各種団体等の支援や公共交通網の整備を行う。
- 地球温暖化の進行に対応し、ゼロカーボンの実現に向けた取り組みを推進するなど、将来にわたって自然と共生できる持続可能な地域づくりを目指す。
- 行政運営においては、民間との連携や公共資産の有効活用を進めるなど、効率的な運営に努め、未来の世代により良いまちをつないでいく。

指標	基準	目標
社会増減数	76 人(R5年度)	100 人(R7～11年度平均)

◆デジタル活用の方向性

公共交通や公共施設をより便利で快適に利用できるデジタルサービスを提供し、持続可能な公共サービスの実現と市民の利便性や、満足度向上を追求する。

<活用例>

- ・施設のオンライン予約、利用申込サービス導入
- ・自動運転を含む新しい交通システムの検証

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市ゼロカーボン実行計画
- 武雄市分別収集計画
- 武雄市空家等対策計画
- 武雄市行政改革プラン
- 武雄市国土利用計画
- 武雄市地域公共交通計画
- 武雄市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画
- 武雄市生活排水処理基本計画
- 武雄市公共施設等総合管理計画
- 武雄市都市計画マスタープラン
- 武雄市立地適正化計画

具体的施策(1) 地域の特色を活かしたまちづくり

(重点プロジェクト)



地域住民が気軽に立ち寄り、集いの場として利用できる公民館づくりなどを通じて、住民同士の交流やつながりを深め、地域の活気を創出する。

各地域が持つ文化財、特産品や自然環境などの特色ある地域資源を最大限に活用することで、その地域ならではの魅力を引き出し、観光資源としての活用や更なる移住定住の促進につながる。

また、人口減少等で継続が困難となる地域保全活動の負担軽減策など、どの地域に住んでいても、いつまでも快適に生活できるまちを実現する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
公民館利用者数	76,600 人(R5 年度)	88,000 人(R11 年度)
地域コミュニティ活性化事業補助金を活用した活動への参加者数	3,810 人(R5 年度)	4,380 人(R11 年度)

具体的事業

- ・地域おこし協力隊事業
- ・定住特区補助金事業
- ・空き家、空き地バンク事業
- ・CSO 活動助成事業
- ・生涯学習まちづくり出前講座
- ・地域資源保全管理支援(除草支援等)事業
- ・移住定住促進事業
- ・東京圏移住支援事業
- ・地域主体のまちづくり事業
- ・地域コミュニティ活性化事業
- ・市民協働活動促進事業
- ・市道防草対策事業 等

<各町の今後の方向性>

各町の特徴や課題に応じた取り組みを進めることで、各町の人口増加を目指し、快適に暮らせる地域づくりを進める。

ここでは、各町の今後の方向性と関連事業を整理した。

なお、各町における今後の方向性、関連事業については、主要なものについてのみ掲載している。

町名	今後の方向性	関連事業
武雄町	市街地の形成にあたっては、JR 武雄温泉駅を中心として、楼門、図書館・歴史資料館、白岩運動公園、武雄競輪場、および現在整備を進めている新文化交流施設エリア等をつなぐ回遊性を高めるための環境づくりを行う。	・新文化交流施設エリア整備事業 ・公共交通運行事業 ・公民館整備事業
橘町	・六角川流域全体で治水対策に取り組み、床上浸水ゼロを目指した水害に強いまちづくりを進める。 ・おつぼ山神籠石については、文化財の価値が高いため、保存を図るとともに、市民の憩いの場及びこども達の学習の場とすることを目的として、史跡としての価値を高めるための整備を行うなど、歴史を活用したまちの活性化を進める。	・治水対策事業 ・文化財保存活用事業
朝日町	・六角川流域全体で治水対策に取り組み、床上浸水ゼロを目指した水害に強いまちづくりを進める。 ・こども園や小学校が所在する公民館周辺を拠点に、こども達が安心して過ごせる居場所や、子育て世代の交流の場づくりなど、安心して子育てができるまちづくりを進める。	・治水対策事業 ・「楽しく子育て」教室事業
若木町	・八幡岳自然公園、眉山キャンプ場、川古の大楠公園など、地域資源や棚田を活かした自然農業体験を推進する。 ・新たな若木公民館は、誰もが利用しやすい地域コミュニティ拠点としての整備を進め、さらなる生涯学習の充実やまちづくり活動の推進を図る。	・公園、キャンプ場維持管理事業 ・観光周遊バス運行事業 ・指定棚田地域保全活動支援事業 ・公民館整備事業
武内町	・武内公民館でコミュニティカフェを運営し、色々な人が気軽に利用できるような環境づくりを進め、新たな人と人とのつながりや賑わいづくりを促進する。 ・焼き物や竹古場キルンの森公園を活用した自然・文化・レクリエーションゾーンを形成する。	・コミュニティカフェ運営事業 ・観光周遊バス運行事業

東川登町	・袴野地区に新工業団地を整備し、さらなる雇用の拡大に向け企業誘致を推進する。 ・交通空白地有償運送を行う地域団体への支援を行うことで、高齢者の社会参加および生活支援の充実を図る。	・新工業団地整備事業 ・高齢者移動支援事業
西川登町	・かんころの家を中心に、あらゆる世代が気軽に集まり、交流できる環境づくりに取り組み、地域のつながりを育む。 ・交通空白地有償運送を行う地域団体への支援を行うことで、高齢者の社会参加および生活支援の充実を図る。	・地域包括ケアシステム 拠点運営支援事業 ・高齢者移動支援事業
山内町	・黒髪山自然公園、乳待坊公園、山内中央公園など豊かな地域資源を効率的に利用しながら景観を保全し、自然環境が確保された土地利用の推進を図る。 ・高次地域拠点 ⁹ である JR 三間坂駅周辺への生活サービス関連施設の立地誘導等により生活利便性を高めるほか、国道35号沿道では既存の集客施設を活かしながら、新たな集客施設の立地誘導を行うなど、活力のある地域づくりを進める。	・公園、キャンプ場維持 管理事業 ・周遊観光バス運行事業
北方町	・六角川流域全体で治水対策に取り組み、床上浸水ゼロを目指した水害に強いまちづくりを進める。 ・高次地域拠点 ⁹ である北方公民館周辺と一体的なスポーツ・レクリエーション拠点を維持するとともに、本市の東の玄関口である武雄北方インターチェンジや国道34号の利便性を活かした活力のある地域づくりを進める。	・治水対策事業 ・国道34号整備事業

具体的施策(2) 持続可能な公共交通の整備



地域の実情に応じた公共交通網を形成し、持続可能な移動手段を確保する。

公共交通の改善・維持に取り組む交通事業者を支援し、公共交通を利用しやすい環境整備を推進する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
循環バス及び コミュニティバス乗降者数	21,065 人(R5 年度)	25,000 人(R11 年度)

具体的事業

- ・循環バス運行事業
- ・生活交通路線維持事業
- ・コミュニティバス等運行事業
- ・廃止路線代替バス運行事業
- ・地方バス路線運行事業
- ・自家用有償運送等事業
- 等

⁹ 生活サービス関連施設等が集積した交流・情報発信の中心となる拠点

具体的施策(3) 豊かな自然環境の維持と活用

深刻化する気候変動への対策は喫緊の課題である。「2050年ゼロカーボンシティ in たけお」を宣言しており、ゼロカーボンに向けた取組を推進する。

豊かな自然を守り後世に継承するとともに自然体験活動などの利活用を推進することで生活の質の向上につなげる。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
キャンプ場利用者数	5,944人(R5年度)	7,900人(R11年度)
不法投棄の通報件数	16件(R5年度)	4件(R11年度)

具体的事業

- ・廃棄物処理、減量等事業
- ・ゼロカーボン推進事業
- ・資源リサイクル事業
- ・公園、キャンプ場活用事業
- ・わんぱくスクール、ジュニアリーダー育成事業
- 等

具体的施策(4) 効率的な行政の運営

歳入強化や歳出削減といった行財政改革に取組み、持続可能な自治体運営を目指す。

公共施設総量の適正化や施設の長寿命化を図るとともに、利用計画の無い資産の売却や貸付を行うなど、資産の有効活用を進める。

業務委託や民間との連携を積極的に推進し、民間の持つノウハウや活力を最大限に活かして、効率的かつ効果的な自治体運営に努める。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
ふるさと納税寄附額	2.8億円(R5年度)	14億円(R11年度)

具体的事業

- ・市税賦課徴収事業
- ・公共施設等(アセット)総合管理事業
- ・競輪事業
- ・ふるさと納税推進事業
- ・行政手続きオンライン化事業
- 等